

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691400032
法人名	株式会社 ケイシン
事業所名	グループホーム たるみず太陽の家
所在地	鹿児島県垂水市浜平2189-6 (電話) 0994-32-5030
自己評価作成日	平成31年2月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型グループホームを目指すと共に、自然と触れ合いながら質の高い介護サービスを提供し、要介護状態の軽減と悪化防止に、最善を尽くしています。毎月1回ちやのんけ(認知症カフェ)を開催し、地域住民と繋がりを持ち、認知症の家族を持つ方の相談を行っています。

家庭的な雰囲気の中で日常生活を皆で支え、利用者中心で一日を楽しく過ごして頂けるよう支援しています。

すぐ目の前の畑で花や野菜を作り、育ち具合や収穫の楽しみを味わい日々の食材として料理に使用しています。また周囲の農家の方からも食材の提供があり、信頼関係を築いています。

季節ごとの行事では、地域の踊りでの参加や見学者も多く、盛り上げて頂いています。

看取りの実績もあり、重度化や看取りに関する勉強会や研修に参加し、知識やレベルアップを図っています。

急変時は主治医から職員や家族に対して直接説明を受けることが可能であるなど、夜間の往診・24時間医療連携が図れていることから安心して生活できる環境で支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、自治会に加入しており、地域の祭りや運動会に参加したり、イベント時のボランティア受け入れや住民からの野菜の差し入れ等があり、普段から地域住民と交流している。毎月認知症カフェを開催し、認知症家族や住民からの相談を受ける等、事業所の特性を活かし地域貢献に取り組んでいる。

・協力医療機関との24時間医療連携及び看護職員の健康管理により、利用者・家族が安心して過ごせるようにしている。重度化等の場合、本人・家族の意向に沿って看取りにも取り組んでいる。

・職員のレベルアップの為、研修受講や資格取得の支援があり、年休取得等の福利厚生も整っている。職員間のコミュニケーションは良好であり、管理者は、緊急に出勤して欲しい場合、本人に出勤が可能か意思確認をした上で依頼し、職員が無理なく働けるよう配慮している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	日々の入居者との関わりの中で安全に配慮し、また地域との連携を図りながら職員間で理念を共有している。	理念を玄関・事務室に掲示し、毎月のミーティング時に、理念及び理念に基づいた目標の確認とケアの振り返りをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	閉ざされた空間ではなく、入居者が地域との繋がりを保ち生きがいを感じて頂けるよう認知症カフェを利用し地域と交流しています。	地域行事の春の祭りや運動会に参加したり、事業所で毎月開催している認知症カフェで住民と交流している。イベント時にはボランティアを受け入れ、近隣からの野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方が気軽に訪問できるように開かれた施設として貢献できるように認知症カフェを通じ、悩みや不安の相談に乗ることを心掛けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の報告はもちろんのこと、関係各所・地域の代表者から頂いた意見を職員に伝え、実践しています。	運営推進会議は定期的に行っている。ヒヤリハットを含めた事業所の状況報告等を行い意見交換をしている。地域の情報を得たり、助言でボランティア受け入れの対応に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者と連携を行い、不明な点や事故報告を実施している。運営推進会議に参加頂き事業所から情報発信するなど協力関係を築いている。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や出向いて報告や相談を行っており、日頃から協力関係を築いている。市主催の研修会に参加し、参加者との意見交換や情報交換にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を2ヶ月に1回開催し、入居者の状況を確認している。職員には勉強会及びネット等での情報収集を促している。	委員会を2ヶ月に1回、研修会を年1回、指針を基に実施している。安全を優先して行動を制限しないよう、言葉かけに気をつけている。昼間、玄関の施錠はせず、外出希望者には一緒に散歩をする等、職員の見回りや見守りで、制限のない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、常にマスコミ報道等の高齢者虐待に関連する記事に関心を持つよう指導し、基本的な介助で虐待に繋がる行為はないか検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度においては、日々変化していく法規に関心に向け、実践研修等での資料を把握するように指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には重要事項説明書・入居契約書を元に十分な説明を行い、不安な点・疑問点を伺っており、制度改定や規定変更等においても確認・捺印を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、または電話連絡時に現在の状況説明を行い、普段からも遠慮することなく疑問に思うことがあれば聞いていただけるよう安心できる関係を築いています。	利用者には、職員との会話や認知症カフェで意見等を聞いている。家族には、運営推進会議や年2回の家族会で意見を聞いたり、アンケートを実施している。電話や面会時に近況報告を行うと共に要望等を聞き、必要に応じて対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々の申し送りで意見を出し合い、即実践に繋げ、反映させています。	申し送りや毎月のミーティング時に職員の意見を聞いている。利用者の変化に応じたケアの統一や夜勤職員の担当業務見直し等が提案され、業務の改善に反映させている。個別相談は管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者は管理者会議で決定したことを報告し、同時にグループ内の他の事業所で実践されていることを参考にし、各自がやりがい・向上心持てるよう環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員ひとりひとりのレベルに応じ、研修会への参加を呼び掛け、最新の介護技術を学べるよう情報収集を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の研修会に参加し、同業他社の職員とも情報交換を行っている。グループワークを通じ問題点や取り入れたい手法などを話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>環境が変わることでの不安感を、気持ちを共有することで信頼できる関係を構築している。寄り添う支援を心掛けている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>困っていること、分からないことを初期の段階で明らかにし、不安を感じさせない関係を心掛け、施設として出来ること出来ないことを明確に説明している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期の相談時を大事にし、契約書及び重要事項説明書を通し、その人にあったサービスが提供出来ることを説明している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は常にそこが職場であると同時にご利用者の生活の場であることを十分理解し、家庭的な雰囲気近づける雰囲気を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で、本人の様子や会いたがっていること等を伝え、本人と家族との絆が薄れないようにし、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会もあり、慰問者や地域行事のお祭り等に出かけ、馴染みの人や場所との関係が保てるよう支援している。	家族や知人の面会時は、居室でお茶を飲みゆっくりしている。家族と受診や外食・外泊をしたり、地域の祭りや運動会で知人と会うなど、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に合わせて座席の配置を工夫し、気の合う人との会話が楽しめるようにし、利用者同士の関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、状況を聞かせて頂いたりして、相談や支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの要望や意向を伺うようにしている。困難な場合は、本人本位のケアプラン作りに努めている	ゆっくり話を聞く時間を取り、本人の思いを把握するように努めており、困難な場合は、家族の情報を参考に表情等から汲み取っている。得られた情報は記録や申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等、これまでの経過を伺い、サービスに繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、出来ること等の現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らせるよう、スタッフの気づきをケアに取り入れ、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に応じた介護計画を作成している。	担当者会議等で本人・家族の希望等を聞き、連絡ノートも参考にしてミーティング時に職員で検討し、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年に1回及び状況変化等の必要時に計画を見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやミーティングなどで意見や情報を出し、共有しながら計画作成担当者と連携し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、及びニーズに対応しながら柔軟な支援やサーボスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市報や地域の会議などで行事に参加できるよう支援し、楽しく安心出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族の希望を大切にし、往診やかかりつけ医への受診を行っている。申し送りノートを活用し情報を共有している。	本人・家族の希望するかかりつけ医を大切にしている。月2回の往診を大半の利用者が受けており、看護師による健康管理も実施している。他科受診は家族の協力を得て実施し、必要時は職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の利用者の心身状態を記録に残し、常時看護職員・診療訪問看護師に情報・気づきを相談し、利用者に適した看護受診が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>日頃から病院関係者との情報交換・相談を行い、入院時には面会に伺い、利用者・ご家族との情報交換</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化・終末期に関する方針を本人・家族に説明し、重度化に伴い早い段階で医療関係者・家族と話し合い、事業所は最も適した環境での支援を心掛けるようにしている。</p>	<p>事業所で対応できる最大限の看取りや重度化した場合の指針を契約時に説明し、同意を得ている。利用者の状況に応じ家族・主治医・看護師等と話し合い、連携を図り、段階的に検討し、方針を共有する体制がある。特別養護老人ホーム等の選択肢も説明している。看取り介護の実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生時の対応を職員間で話し合い確認を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回以上消防避難訓練を実施し、色々な災害・火災など、地域の方々と連携して職員全員が日頃から安全対策を意識している。</p>	<p>消防署の協力の下、年2回昼夜想定避難訓練を実施している。地域住民に参加、協力を呼びかけている。備蓄として飲料水や生活用水・インスタント・レトルト食品やカセットコンロを準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように声掛けと対応をしている。言葉使いにも気を付け、名字で声掛け行なっている。	さん付けでの呼びかけや排泄介助時のさり気ない声かけ等、言葉使いに気をつけている。入浴介助時の同性介助への対応や申し送り等は利用者の前では具体的な話はしない等、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思い・望みを表して頂けるように色々と選択できる声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のプライバシーを守り、スタイルや個人のペース・体調に合わせ、外出などの声掛けを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ひとりひとりの趣味や好みに合わせ、身だしなみを整え、おしゃれが出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事やお祝い事に合わせ、献立を工夫し食べやすい形状にして食欲や興味に繋げている。	事業所の菜園で収穫した野菜や近隣より頂いた旬の物を活用し食事を提供している。食事形態を工夫している。利用者の状況に合わせて片づけを一緒にしたり、切り干し大根作り等もある。誕生日のケーキ・行事食・ベランダでのお茶等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取量や栄養・水分量を確実に摂れるように、その時の状態・習慣に合わせて食事形態を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや匂いに気を付け、毎食後確認し、一人一人の能力に合わせて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの自立支援を第一の目標とし、安全に配慮して一人一人の排泄パターンを把握したうえで支援を行っている。	日中、トイレでの排泄を基本目標として、個々に応じた排泄支援を行っている。水分量や排尿・排便・緩下剤服用状況等を記録し排泄パターンを共有している。2人介助も実施している。個々に応じた適切な排泄用品の種類等も検討し使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールでは最新の情報を共有し、医療関係とも連携を取りながら水分量と運動量を増やして便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者の方と一緒にコミュニケーションを取りながら気分よく入浴している。また身体に変わった様子はないか常にチェックを行っている。	週3回午前中の中の入浴を基本としている。入浴を嫌がる利用者には、声かけの工夫をしたり、職員2名体制で短時間で済ませたり、足浴や清拭に変える等、状況に応じ無理強いする事なく対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握、情報を共有し、その方に合った安眠をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況の変化で服薬の内容も変わり、常に服薬表を把握し、副作用・目的を理化している。またミーティングでも再度確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご利用者の尊厳を重視して、その方の「出来ること」を再確認して役割を果たすことの楽しみを提供している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常生活で豊かな気分になり、気持ちよく一日を過ごしていただくように声かけを行い、地域の社会資源を生かして外出支援を行っている。</p>	<p>日常的に事業所周囲の散歩や敷地内の菜園等、天候や体調に応じて外出している。地域行事や花見・銀杏の木等を見物に行くこともある。デッキに出てお茶を飲み外気浴を行う等、柔軟な支援を行っている。数人のドライブも実施している。家族と外出や外泊をする利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者様と一緒に近くのスーパーや薬局等買い物に行き、品物を選んだり値段についての説明を行うなどの支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>届いた手紙などは居室に飾ったり、本人の手の届くところに置かせて頂くなどの配慮を行っている。お電話での希望があれば即対応をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の生活習慣を把握し、そのときの状況に合わせて席替えなどの配慮を行っている。温度・湿度管理を行い、また季節感を出す壁紙を貼って心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間はゆったりとした作りで天井が高く開放感がある。高窓からの採光もある。室内環境も適度に調節されている。季節の花や利用者と一緒で作った装飾品が飾られている。ホール兼食堂にはソファが数ヶ所あり、それぞれの場所に設置し、個々が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは入居者の相性やその時の健康状態・精神状態に合わせて居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人と相談し、自宅にて使い慣れた置物や家具などを持ち込んで頂き、家族の写真を飾り心地よい空間を作っている。	ベッド・洗面台・タンス・クローゼット・エアコンが設置しており、家族の思いで家族写真やお気に入りの装飾品を飾っている。洋服掛けや時計・ラジオ等が持ち込まれている。和式寝具の利用もある等、個々に応じた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとり、「今出来ること」「わかること」を把握し、障害物を取り除く支援を行い自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない